

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和3年5月24日 ～ 令和4年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援学級の設置を含め、生徒の実情に応じた教育課程の編成について</li> </ul> <p>II. 広報・相談体制の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間中学校についての周知</li> <li>・ 不登校経験者支援のための相談体制の整備</li> </ul> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍生徒の在留資格についてや日本語指導等における教職員研修や教材作成について</li> <li>・ 特別支援を必要とする生徒についての職員研修</li> </ul> <p>V. 環境整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜間中学校専任スタッフ(通訳・スクールホ-ター等)の配置や就学援助制度などによる教育活動における支援のあり方について</li> </ul>
調査研究のねらい	<p>I. 入学時点では殆ど日本語を話すことのできない外国籍の生徒が多くを占め、母語での読み書きができない生徒もいる。日本国籍の者も帰化・引揚げ帰国者が多くを占めている。そのため、中学校の教育課程の学習以前に小学校の教育課程や日本語習得が必要である。より効果的な日本語指導とそれに続く小学校、中学校教育課程の指導方法を研究し、体系化していく。また、特別支援学級の設置に伴い、支援が必要な生徒の教育課程編成の研究を行う。</p> <p>II. 夜間学級に入学してくる生徒たちの多くは、高齢者や不登校経験者も含め国籍にかかわらず、様々な生活上の困難を抱えている。生徒達が日本の社会で安全、安心な生活を営むための「生きる力」を習得できるよう相談体制を確立し、学習指導も含め生活指導にも力を入れ、その指導方法を記録、工夫していく。また、現在は春と秋に入学を受け付けているが、積極的に多様な生徒を受け入れることができる体制づくりの研究を進める。</p> <p>IV. 不登校や特別支援が必要な義務教育既卒者の入学者もあり、外国籍や高齢の生徒など様々な生徒の実態に合わせた指導方法や教材の開発に向け、教職員研修を重ねることで指導力向上につなげる。</p> <p>V. 生徒の実態に合わせた指導をサポートするスタッフを配置することで、学習指導・生活指導・進路指導等を進める。</p>
調査研究の成果	<p>◎本年度の取り組みについて</p> <p>ア. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ感染不安から登校を控える生徒がいる。出席者は例年より少なかったが、7組～4組までの日本語を主体としたクラスでは、例年と同じように日本語の習得状況に応じて、7組→6組→5組→4組と半</li> </ul>

期ごとに学級編成を行い進級させた。また、進級はしたが家庭状況などの理由により出席が難しい時期があり、高齢などのため学習成果が定着せず、ついていけなくなった生徒は本人と相談のうえ元のクラスに戻した。

・3組～1組は本来の中学校教育課程での編成である。個々の状況により個別の指導を行っているが、高齢のため学校で長い時間過ごせない者、家事や残業等により早退・遅刻・欠席をする者がおり、学習進度に差ができた。また、支援が必要な者や既卒者の入学、問い合わせが数件あり、そのため、例年以上に個別の対応が必要となり教材等の工夫をした。今年度は日本語指導支援員の配置時間が少なくなり個別の対応に苦労した。

- ・進学予定の生徒には、専任スタッフの通訳のもと保護者、本人と進路懇談し、学校説明会にも参加した。また、日々の授業前と長期休業中に補習等の学習体制を実施し、高校進学に向けて取り組んだ。
- ・本校で学習してきたことを元に、自分の思いを作文にして披露する作文発表会を実施し、年度末には文集にして校外にも配布している。春、秋の入学があるので年2回実施している。

#### イ. 広報・相談体制の充実に関すること

- ・本校の昼の生徒との交流は、全校集会で代表生徒の作文発表と本校教職員による説明を行った。「夜間中学校のことがよくわかった。」と感想をたくさんもらった。
- ・人権作品展での展示や校内作品展の実施(学校案内や生徒募集ビラの設置)や地元FM局での生徒募集の呼びかけ等夜間中学校の周知や生徒募集についての広報活動を実施した。
- ・結核検診における精密検査等の指導や学校検診における精密検査・特定検診等も病院等への付き添いや国民健康保険の請求や滞納の対応等について市役所・保健所等への相談援助を行った。
- ・府営住宅、市営住宅申し込みの書類の書き方等の援助を行った。
- ・生活保護関連の手続き援助を行った。
- ・就学援助関連の手続き援助を行った。
- ・健康について相談対応を行った。
- ・生徒の新たに渡日した学齢期の子弟の教育相談等の対応を行った。
- ・通学定期関連の手続き援助を行った。

#### ウ. 教職員の配置・研修に関すること

- ・日本語指導力の向上のため研修を行い、本年度は大阪YWCAで日本語指導の模擬授業を参観し、後に教授方法などの研修を受けた。
- ・校内研究授業を行い、指導方法の改善はもちろん、自主教材の作成に力を入れた。
- ・スクールカウンセラーが月1回配置されていることもあり、生徒も教師も相談しやすくなった。また、今年度特別支援が必要な生徒の入学も有り、大人の精神疾患等についての研修を昨年に引き続き行った。

#### エ. 環境整備に関すること

- ・専任スタッフ(通訳)の配置により様々な行事に参加をする際の通訳や進路説明会や保護者との進路懇談、新聞等の取材の通訳など取り組みを円滑に進めることができたと考える。
- ・全教職員で校内整備を行ったり、廊下にみんなで作った作品を展示して、いつでも見られるようにしたりして、落ち着いて学校生活を送れるように心がけた。

#### ◎成果について

本学級には外国籍生徒が多数在籍しており、日本語指導力の向上は、本学級の最優先課題であるが、毎年課題を決めて研修を重ね、それぞれの教師の方向性の確認や、修正すべきところを見いだすことができた。しかし、それぞれの学習理解度や学習進度には個人差があり、課題は尽きない。外国籍生徒に対し、学校や日本での生活におけるアドバイスや進路指導等にかかしていかなければならない。

不登校による既卒者の学びなおし生徒について、特別支援が必要な生徒もおり、支援学級の担当だけでなく夜間中学校に派遣されているスクールカウンセラーとも引き続き連携していかなければならないと考える。

生徒指導、生活指導の相談の中で、外国籍生徒の課題を捉え、教科指導、教材作成等に活かしている。また、通訳を交えた進路相談を行い、進学希望者への補習を日々の課業前や長期休業中に行うことにより、生徒の不安や心配を取り除き、出席を助けることにもなっている。しかし、どうしても生活が優先となり、出席したくてもできない生徒は多い。

高齢者で就学機会を希望する生徒、日本のことをあまり知らない外国籍の生徒、これから増えてくることも考えられる不登校経験や特別支援が必要な既卒生徒にとって、夜間学級は学習できる場所である以上に、安心できる居場所であり、なんでも相談に応じてくれる信頼する教師のいるところであり、特に高齢の生徒たちにとっては重要なセーフティーネットとなっている。また、高校進学を考えている者もいるが、卒業生のほとんどが夜間学級での継続した学習を望んでいる。

夜間中学校に於いては、夜間中学校加配や日本語指導支援員、日本語指導補助員(通訳)やスクールカウンセラーの配置は学習指導や進路指導、又は、健康相談や生活相談に大いに役立っているが、生徒の状況は多種多様でまだまだ十分ではない。これからもさらに追加・充実が望まれる。